

学校関係者評価委員会報告

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台では、本校の学校関係者評価委員会規定に基づき委員会を実施いたしました。以下に議事進行についてその内容をご報告いたします。

今後は、各委員からの貴重な意見や提案を真摯に受け止め、学校運営の改善および教育の質の向上に努力してまいります所存です。

日時：平成28年9月29日(木) 14:00～15:50

会場：専門学校デジタルアーツ仙台 2階 大会議室

出席者：14名

1. 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員

氏名	所属等
委員長 桑島 幸毅	株式会社仙台シティエフエム 統括マネージャー
副委員長 小野寺 千代志	有限会社ビックフラットエンタープライズ ライブハウススペースゼロ 店長
岸浪 行雄 代理(小野 正宏)	株式会社東北共立 代表取締役
金塚 弘	株式会社メディアPR 代表取締役
落合 泰朗	本町新光町内会 会長
金子 篤	株式会社ピコラ 代表取締役
佐々木 和夫	公益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会理事
山本 一平	有限会社アノンピクチャーズ クリエイティブディレクター
狩野 咲	卒業生 (マジカルリミックス勤務)

事務局

氏名	
梅川 明寛	専門学校デジタルアーツ仙台 副校長
櫻井 潤	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
杉内 弘行	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
大島 正義	専門学校デジタルアーツ仙台 教務部長
間中 隆	専門学校デジタルアーツ仙台 学生部長

2. 委員会次第

- ・ 開会 梅川副校長
- ・ 実績数値説明 櫻井教頭
- ・ 自己点検報告 桑島委員長
- ・ 討議、意見交換 各委員
- ・ 閉会 杉内教頭

3. 討議・意見交換

(1) 教育理念・目標

学校の教育理念は4月のオリエンテーション時に配布する学生便覧に明記しており入学時に人材育成像と共に学生に説明しているが入学時の説明だけでは不十分なので前期末に再説明が必要であるとの意見が出た。

また、社会のニーズを踏まえて、「問題解決型」の人材育成を目的としITソリューション科を設立した。

(2) 学校運営

職業実践専門課程の運用に伴い規定集により各種規定の整備している。

ホームページなどで教育活動に対する情報公開を実施している。

また、学校業務の情報システムが老朽化しているので、IT委員会を設け学園内のセキュリティ面も考慮し学園内のシステム等の見直しを検討している。

(3) 教育活動

教員研修の実績については、各科で参加状況（回数）に差異があるとの指摘を受けたので、今後は研修を計画的に実施していく。

職業実践専門課程における企業連携イベントで音響、司会などで学生が参加し非常に助かっているとの意見があった。

また、デジタルアーツ仙台は実践的な企業連携が多くあり学生の教育効果も高いので今後とも継続して欲しいとの意見があった。

現場実習の機会が科によって差があるので、どの科も企業連携に伴う現場実習の機会を均等に増やしていきたい。

(4) 学習成果

就職率の向上に関しては科（業界）によってポイントが異なっているため以下の点を重点指導する。

- ・ ゲーム系（とにかく技術が大切である。）

- ・ デザイン系（ポートフォリオが重要視される。）
- ・ スタッフ系（チームとして一緒に仕事出来るかが重要である。）

また、卒業生の動向を把握し就職活動時の有効な情報源とするとの意見もあった。
（卒業生とのネットワークの構築）

技術系の科ではクラス内のレベル差が激しく優秀な学生を伸ばせる教育体制が必要との意見が出たので、今後とも最善の手法を検討していく。

退学率の低減に関しては、学生支援室とクラス担任の面談を通して各学生の諸問題に臨機応変に対処している。ケースによっては教務部長、教頭が面接を行う。また、今年度よりスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施している。今後とも退学率の減少を目指し学生個人に寄り添った丁寧な指導をしていく。

（5）学生支援

昨年から学校内で懸案となっている学生の体調不良時に、休む部屋はあるが常駐している看護師などがいないとの自己評価を受け、委員から緊急時の体制（近隣の病院への搬送、救急車の手配）などの対応がマニュアル化し指定の病院などが決まっていれば問題ないのではとの意見があった。

今後とも学生が満足できる学生生活を送れるように各項目（学習、就職、生活、学費）についての支援を検討していく。

（6）教育環境

防災時の準備体制が弱いのではないかとの意見があった。

現在、防災時の指導マニュアルを設け避難訓練を年1回実施しているが、災害時の避難所としての備蓄が不十分であるので今後、改善していく。

学校としては、今後とも社会のニーズに則した人材を育成するため実務環境と同じ環境で勉強出来るように学習設備・環境を整えていく。

（7）学生の受け入れ募集

概ね、募集は順調である。

企画広報室を中心に学校外の広報活動として進路ガイダンス、模擬授業、会場ガイダンスなどを実施している。学校内の広報活動としてはオープンキャンパス、学校見学会を行い適正に学生募集活動を行っている。

意見・異議等なし。

(8) 財務

意見・異議等なし。

(9) 法令等の遵守

意見・異議等なし。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校としては社会貢献できていると自己評価している

職業実践専門課程の実施に伴い地域と連携したイベント（とっておきの音楽祭・定禅寺ストリートジャズフェスティバル・仙台ゴスペル・フェスティバル・本町夏祭りなど）に数多く参加した。各委員からも今後とも地域に貢献したイベントの参加を期待しているとの意見が出た。

学校としても、さらなる充実を目指し地域貢献を活発に行っていきたい。

(11) 国際交流

- ・特に問題はなく、学生募集も充実している。
- ・本校の国際交流室と外国人留学生担当教員（科担任）が連携して、仙台市内の日本語学校を中心に定期的な情報交換を実施。動向やニーズをキャッチしながら戦略的な留学生の獲得・募集活動を行っている。
- ・留学生の受け入れは、取次申請の資格を有する担当教職員が適正に行っている。在籍管理は、国際交流室と科担任が連携して、欠席者への連絡や指導および面談など、きめ細かく対応・実施している。

また、外国人留学生受け入れ校は、東京および仙台入国管理局への各種届出・報告（受入・離脱、在籍者報告、等）が義務づけられており「適切な届出・報告」が求められる。

さらに、外国人留学生受け入れ校として不法在留率が3%以下の「在籍管理が適切に行われていると認められる専修学校専門課程」に対して、仙台入国管理局より「適正校」としての選定を受けることとなるが、本校は「適正校」として選定をいただいている。

- ・留学生の卒業後の学生成果について質問があった。
取得資格・就職先・大学進学先、等を掲載した外国人留学生向けの入学案内書の作成・配付、および、ホームページに掲載している。
また、日々の学習成果を発表する場としてスピーチコンテスト（年2回：前期

1回、後期：1回)
を実施している。

学校としては国際交流室と科担任が連携して留学生に対応しており、支援体制十分整っていると考える。